

解説・記載例編

# 地震・水害 BCP作成キット



2017/1 改定

## <はじめに>

平成 23 年 3 月の東日本大震災以降、さまざまな組織において災害対策の認識が高まりました。福祉施設も例外ではなく、「事業継続計画（BCP）のひな形がほしい」など多くのご相談をいただきました。

本書はそうした声にお応えする形で作成しております。

※BCPは通常、①「災害発生前の平常期」、②「発生直後の初動期」、③「復旧するまでの復旧期」を対象としますが、多くの福祉施設では③の対応の前提となる①②の検討が不十分です。福祉施設全体の災害対策力の底上げを目指すため、本書は①②を中心的に記載しています。

## <本書の特長>


### ①簡単に作成ができる

解説編を参考に、必要な項目を検討すれば、最低限押さえるべき項目を網羅できます。

### ②作成後は施設内研修等に活用できる

職員研修の際に本書のブランクを埋めてもらうなど、職員の災害対策意識を醸成する研修に活用いただけます。

### ③大規模地震だけでなく身近な水害にも言及している

本書では大規模地震対策をベースとしていますが、水害に特有の事項は  **水害** マークを付けて言及しております。

## <本書の構成>



本書では見開き 2 ページで 1 つの項目について記載しています。左側のページ(オレンジ)には解説が、右側のページ(グリーン)にはマニュアルの枠組みが記載されています。

## <本書の使い方>

- ①: その項目で決めること・確認することをオレンジの「検討すべきこと」を参照して考えます。
- ②: ①を考える際の注意点をオレンジの「対策のポイント」を見て確認します。
- ③: ①②を踏まえて、グリーンの項目について職員で話し合って決めて記載します(グリーンの項目以外に貴重な意見が出た場合は、巻末メモに記載し、マニュアルを見直す時に加えて下さい)。

# 0. BCP(事業継続計画)とは

## <BCP 作成の目的>

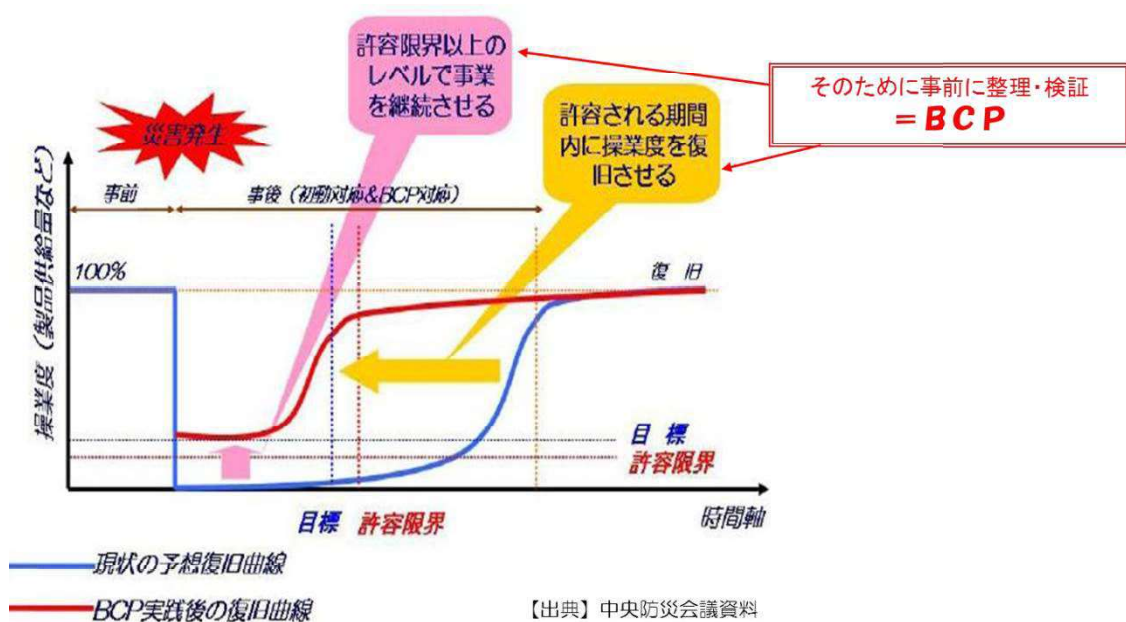
BCP は「平常時の対応」「緊急時の対応」の検討を通して、①事業活動レベルの落ち込みを小さくし、②復旧に要する時間を短くすることを目的に作成します。

## <BCP 作成の必要性>

福祉施設では災害が発生した場合、一般に「建物設備の損壊」「社会インフラの停止」「災害時対応業務の発生による人手不足」などにより利用者へのサービス提供が困難になると考えられています。

一方、利用者の多くは日常生活・健康管理さらには生命維持の大部分を福祉施設の提供するサービスに依存しており、サービス提供が困難になることは利用者の生活・健康・生命の支障に直結します。

上記の理由から、他の業種よりも福祉施設はサービス提供継続の必要性が高く、BCP 策定など災害発生時の対応について準備することが求められます。





# 目次

## 1. 平常時の対応

実施状況		ページ番号
<input type="checkbox"/>	1-1. 立地の確認	2ページ
<input type="checkbox"/>	1-2. 建物設備の確認(地震)	4・6・8ページ
<input type="checkbox"/>	1-2. 建物設備の確認(水害)	10ページ
<input type="checkbox"/>	1-3. 職員の参集	12・16ページ
<input type="checkbox"/>	1-4. 災害対策の役割と組織	18ページ
<input type="checkbox"/>	1-5. 緊急連絡網の整備	22ページ
<input type="checkbox"/>	1-6. 優先業務の選定	24ページ
<input type="checkbox"/>	1-7. 災害用備蓄の準備	26~30ページ
<input type="checkbox"/>	1-8. 施設内避難の検討	32ページ
<input type="checkbox"/>	1-9. 施設外避難の検討	34ページ
<input type="checkbox"/>	1-10. 利用者情報の持ち出し	36ページ
<input type="checkbox"/>	1-11. 水害時の避難情報の確認	38ページ

各項目の検討が完了したら、  
「実施状況」の欄にチェック  を入れてください。



## 2. 初動時の対応

実施状況		ページ番号
<input type="checkbox"/>	2-1. 利用者・職員の安全確保	40ページ
<input type="checkbox"/>	2-2. 建物・設備の被害点検	42ページ
<input type="checkbox"/>	2-3. 利用者・職員の安否確認	44ページ
<input type="checkbox"/>	2-4. 電気が止まった場合の業務継続策	46ページ
<input type="checkbox"/>	2-5. 水道が止まった場合の業務継続策	48ページ
<input type="checkbox"/>	2-6. トイレが使用できなくなった場合の業務継続策	50ページ
<input type="checkbox"/>	2-7. 暑さ・寒さ対策	52ページ

## 3. 地域貢献

実施状況		ページ番号
<input type="checkbox"/>	3-1. 地域貢献のための準備	54ページ

## 4. 事業中断

実施状況		ページ番号
<input type="checkbox"/>	4-1. 事業中断の対応	56ページ

# 1. 平常時の対応

解説

## 1-1. 立地の確認

### 検討すべきこと

- ◇ ハザードマップから、施設はどんな災害の危険性があるか
- ◇ 施設で対応すべき災害リスクは何か

### 対策のポイント！

- ◆ ハザードマップを活用し、地震であれば震度、水害であれば浸水深などを確認する。
- ◆ ハザードマップを踏まえ、対策を検討すべき災害を決める。
- ◆ 被害地域に該当しなくても最低限の備えが必要であると認識する。
- ◆ 過去の災害による地域の被災状況も立地リスク検討の一助となる。
- ◆ 下記の表を参考に、震度と建物被害をイメージする。

#### <ご参考：鉄筋コンクリート造建物の状況>

震度 階級	鉄筋コンクリート造建物	
	耐震性が高い	耐震性が低い
5強	—	壁、梁(はり)、柱などの部材に、ひび割れ・亀裂が入ることがある。
6弱	壁、梁(はり)、柱などの部材に、ひび割れ・亀裂が入ることがある。	壁、梁(はり)、柱などの部材に、ひび割れ・亀裂が多くなる。
6強	壁、梁(はり)、柱などの部材に、ひび割れ・亀裂が多くなる。	壁、梁(はり)、柱などの部材に、斜めや X 状のひび割れ・亀裂がみられることがある。1階あるいは中間階の柱が崩れ、倒れるものがある。
7	壁、梁(はり)、柱などの部材に、ひび割れ・亀裂がさらに多くなる。1階あるいは中間階が変形し、まれに傾くものがある。	壁、梁(はり)、柱などの部材に、斜めや、X 状のひび割れ・亀裂が多くなる。

出典：気象庁HP <http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/shindo/kaisetsu.html>



# 1. 平常時の対応

記載例

## 1-1. 立地の確認

### ハザードマップ

巻末に添付。

自治体がホームページ等で公表しているハザードマップを印刷し、巻末に添付する。

### 対象とする災害

本マニュアルで対象とする災害リスクは、

**大規模地震**

**水害**

上記いずれか、または両方に○をつける。

# 1. 平常時の対応

解説

## 1-2. 建物設備の確認(地震)

### 検討すべきこと

- ◇ 想定される揺れに建物は耐えられるか
- ◇ 設備・什器類の転倒・転落・破損等防止措置はとられているか

### 対策のポイント!

- ◆ 建物の耐震性の確認
    - ✓ 建築年を確認し、新耐震基準が制定された 1981(昭和 56)年以前の建物は耐震補強を検討する
- ※新耐震基準建物は、震度6強までの地震でも倒壊しないと言われています
- ※耐震補強のイメージは以下の通り

#### 耐震補強



倒壊・崩壊を防ぐため耐震部材を追加します。



●耐震スリットスリットを切り、耐震上不利な配置の壁を無効化

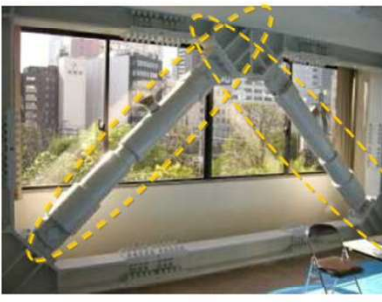


●枠付き鉄骨ブレース補強地震動の力に対し、純粋に建物の強度(力)で対応

#### 制震補強



エネルギー吸収部材を追加します。高層建物に向く改修方法です。

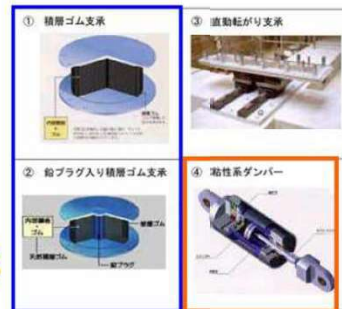


●制震ダンパー補強地震エネルギーを吸収し、地震動から建物に加わる力そのものを減少させる。

#### 免震レトロフィット工法



建物を丸ごと免震構造に改修



出典：NTTファシリティス勉強会資料

もう1歩!

▶ 建物・設備が地震により損壊した場合、復旧のための手当(保険の補償を受けられるか?)を確認しておきましょう。



# 1. 平常時の対応

記載例

## 1-2. 建物設備の確認(地震)

### 建物の耐震性の確認

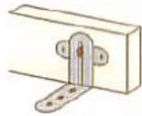
建築年	1990年		
耐震診断の実施状況	実施 / <b>未実施</b>		
耐震診断の結果	旧耐震基準 / <b>新耐震基準</b>		
主要構造部の状況	異常箇所	補修予定	
外壁の異常	<b>あり</b> / なし	玄関横の壁に 亀裂	夏頃補修予定
柱の異常	あり / <b>なし</b>		
屋根の異常	あり / <b>なし</b>		
	あり / なし		
	あり / なし		
	あり / なし		

# 1. 平常時の対応

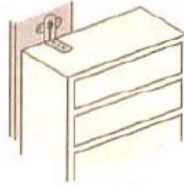
## ◆ 設備・什器類の確認と対策の検討(その1)

### ① 家具転倒防止金具 (500円程度～)

- ・最も安定した転倒防止力を発揮します。



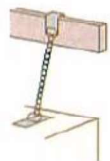
かもいの場合



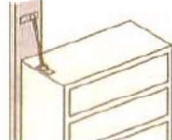
柱の場合

### ② 家具転倒防止チェーン (1,000円程度～)

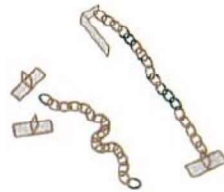
- ・天井が斜めのところにも取り付けることができます。
- ・チェーンの長さは自由に調節できます。



かもいの場合

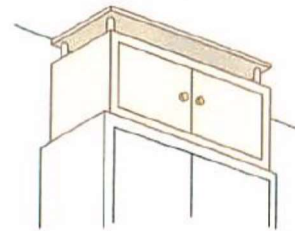


柱の場合



### ③ 上置型すきまボックス (5,000円程度～)

- ・デッドスペースを収納に活かしつつ、家具を固定できます。



### ④ 家具転倒防止板 (1,400円程度～)

- ・つっぱり棒と併せて使いましょう。



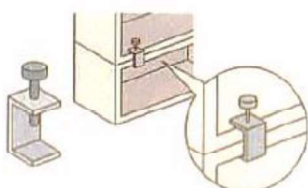
### ⑤ つっぱり棒 (1,000円程度～)

- ・ネジ、釘を使わないので、家具や柱・壁に傷をつけません。
- ・転倒防止板と併せて使いましょう。

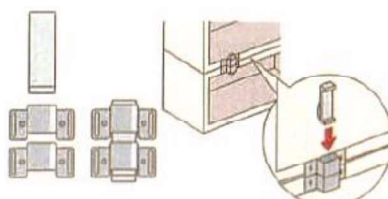


### ⑥ 二段式家具固定金具 (160円程度～)

- ・ネジタイプ



- ・簡易着脱タイプ



# 1. 平常時の対応

記載例

## 設備の耐震性の確認

確認日: 20XX年●月●日

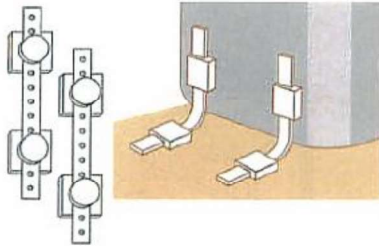
設備	状況	改善箇所・時期
給水タンク	問題なし / 要改善	
ボイラー設備	問題なし / 要改善	
受電設備 (キュービクル)	問題なし / 要改善	
空調設備	問題なし / 要改善	
各種ポンプ	問題なし / 要改善	
消火設備	問題なし / 要改善	
自家発電設備	問題なし / 要改善	
エレベーター	問題なし / 要改善	○月定期点検実施済
排水処理施設	問題なし / 要改善	
	問題なし / 要改善	
	問題なし / 要改善	
	問題なし / 要改善	
	問題なし / 要改善	

# 1. 平常時の対応

## ◆ 設備・什器類の確認と対策の検討(その2)

⑧ OA機器用耐震固定バンド  
(2本1組で1,580円程度～)

- ・ねん着テープで固定します。



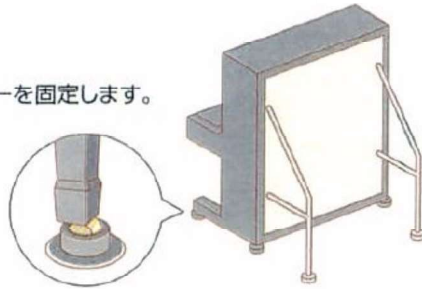
⑨ 耐震ジェル  
(700円程度～)

- ・テレビ等の固定に使用します。



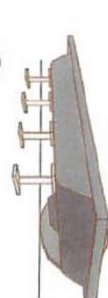
⑦ ピアノ転倒防止具  
(18,000円程度～)

- ・移動防止のため、キャスターを固定します。
- ・アップライト型の重心は背面にあるため転倒防止具をつけましょう。



⑩ テレビ転倒防止用具  
(2個1組で3,000円程度～)

- ・テレビは壁に固定しましょう。

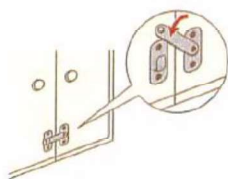
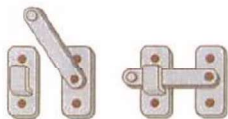


薄型の場合



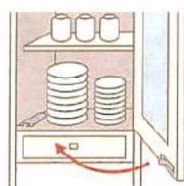
ブラウン管の場合

⑪ 留め金具  
(200円程度～)



⑫ 耐震ロック  
(450円程度～)

- ・一度扉を押さないと開かないので、ひとりで扉が開くことはありません。



# 1. 平常時の対応

記載例

## 什器・備品の転倒・転落防止措置の確認

確認日: 20XX年●月●日

	什器・設備	状況	改善箇所・時期
居室	家具	問題なし / 要改善	
	テレビ	問題なし / 要改善	
	電灯	問題なし / 要改善	
	花瓶	問題なし / 要改善	
		問題なし / 要改善	
その他	戸棚	問題なし / 要改善	
	テレビ	問題なし / 要改善	
	電灯	問題なし / 要改善	
		問題なし / 要改善	
		問題なし / 要改善	
	ガラス (飛散防止)	問題なし / 要改善	飛散防止シート貼付 今年度中に実施予定
		問題なし / 要改善	
		問題なし / 要改善	

## 1-2. 建物設備の確認(水害)

### 検討すべきこと

- ◇ 建物が浸水する危険性はあるか
- ◇ 施設機能維持に必要な設備類が浸水する危険性はあるか
- ◇ 暴風による損壊のおそれのある箇所はあるか

### 対策のポイント！

#### ◆ 浸水による危険性の確認

- ✓ 外壁にひび割れ、欠損、膨らみはないか
- ✓ 開口部の防水扉が正常に開閉できるか
- ✓ PC・サーバ・重要書類などは、浸水のおそれのない場所に保管されているか(上階への保管、分散保管など)
- ✓ PC・サーバのデータは、定期的にバックアップをとっているか
- ✓ いざという時に持ち出す重要書類は決まっているか など

#### ◆ 暴風による危険性の確認

- ✓ 外壁の留め金具に錆や緩みはないか
- ✓ 屋根材や留め金具にひびや錆はないか
- ✓ 窓ガラスに飛散防止フィルムを貼付しているか
- ✓ シャッターの二面化を実施しているか
- ✓ 周囲に倒れそうな樹木や飛散しそうな物はないか など

もう1歩！

▶ 水災・風災により建物・設備に損害が発生した場合、復旧のための手当（保険の補償を受けられるか？）も確認しておきましょう。

